



第253回

林明夫の歩きながら考える

21世紀の地球社会

効果の上がる「家庭教育の方法」は何ですか。

「率先垂範、保護者が、模範を示すのが一番」効果的です。

え、ということですか。例えば、林さんが、ずっと訴え続けている「辞書、新聞、読書、図書館に慣れ親しみ、読解力を身に付けよう」を、家庭教育として取り組む場合、どのように、「保護者」としての模範を示せばよいのですか。

〈辞書に親しませる方法〉

(1) 家庭学習として、辞書に親しませ、語彙力を身につけさせたいか。読解力を身につけさせるには、どのように、保護者と

効果の上がる家庭教育の仕方を考える。 率先垂範、保護者が模範を示すのが一番効果的

しての模範を示したらいいか。

(2) まずは、保護者の身近のすぐに取り出せる場所に、「国語辞典」「漢字辞典(漢和辞典)」「英和辞典」など、「辞書」を置くことです。

(2) 保護者の皆様が、中学校や、高校でお使いになった辞書があれば、ぜひ、探し出し、身近に置いてください。もし、身近に辞書がなければ、書店に行き、ぜひ、読みやすい辞書を購入しましょう。ブックオフなどの、100円コーナーにも、国語辞典や漢字辞典、英和辞典が並んでいることもあります。老眼気味の方は、文字の大きな「小学国語辞典」がおすすめです。

(4) そして、保護者は、新聞や本などを読んでいて、意味や、読み方がわからないことばがあったら、子供の前で「辞書を用いて調べる」ことを、おすすめいたします。子供は、保護者のみなさまが、意味や読み方がわからない語句があった場合、「辞書を用いて調べる」という様子を、直接、目の前で見

ることにより、「辞書」の大切さを知ることができるからです。

(5) 以前、公益財団法人日本外国特派員協会で「シェイクスピア午餐会(ランチを食べ、シェイクスピアの作品の解説を聞き、ビデオで作品を見る会)」に参加した際、近くにおいで、映画字幕翻訳家の戸田奈津子氏

が、「辞書」を用いて調べているお姿を見、大感激したことがあります。戸田さんのような方が辞書を用いて調べる姿を間近で見るとは、私にとつて、大きな影響をもたらしました。

(6) 「辞書に親しませる習慣」を身につけさせたかったら、「保護者は、率先垂範、こどもの前で、辞書に親しんでいる姿を示す」。どうでしょうか。

――〈新聞に親しませる〉には、どうしたらよいですか。

(1) 「保護者が、新聞を毎日、一面から、30分以上、舐めるように読む」姿を、こどもに見せるとが一番効果的です。

(2) そのためには、各ご家庭で、新聞を購読なさることをおす

すめいたします。

(3) 週に何回か、曜日を決めて、コンビニで新聞を買い、1週間かけて、まずは保護者が、こどもの前で、新聞をお読みになることを、おすすめいたします。土曜日、日曜日の新聞は、様々な特集が組まれ、読みごたえがあります。

(4) どうしてもという保護者の皆様は、年に1回、「元旦」の新聞を、1〜2紙、コンビニなどで買い求め、お正月休みの間に、こどもの前で、お読みになることをおすすめいたします。

(5) 世の中には、毎日発行され、毎日配達される「新聞」があることを教えることは、立派な家庭教育と考えます。

(6) 新聞をインターネットで読む場合には、購読料金を払うと、「記事の全文」を、コマースナルなしで読むことができ、内容のしっかりした全国紙、地方紙、英字新聞を、料金を払って読むことをご指導なさることを、おすすめします。

(7) 無料の記事には、広告が満

載で、記事の全部は読むことができません。情報サイトには、どんどん、読者の嗜好を分析した広告宣伝であふれだしますので、タダより高いものはないという結果に陥ることもあります。要注であることも家庭教育でお教えください。

――〈読書に親しませるには〉どうしたらよいでしょうか。

(1) 保護者が読書に親しむ姿を子供に見せるのが、一番効果的です。

(2) そのために、何をどうしたらいいか。自分が読みたい本を、身近に置き、子供の前で、熱心に読むことをおすすめします。

(3) 一度読んで、もう一度読みたい本や、途中で読んで、読み終えていない本があれば、何冊か身近に置き、頑張つて最後まで読んでみる。その姿を、こどもに見せることをおすすめします。子供に読ませたい本は、決して処分しないようお願いいたします。

(4) 一冊本を読み終えたら、同じ著者・作家の、別の代表作に挑戦し、頑張つて最後まで読む。例えば、ツルゲーネフの代表作、「初恋」(米川正夫訳、岩波文庫)を読み終えたら、別の代表作「片恋・ファウスト」

(米川正夫訳、岩波文庫)を、こどもの前で、続けて読む。「本を一冊読み終え、気に入ったら、その作者の代表作も読む」という「読書の方法」を、家庭教育として子供に伝えることも、意義深いと考えます。どうでしょうか。

—〈図書館に慣れ親しむ〉にどうしたらよいでしょうか。

(1)保護者が、子供と一緒に、週に何回か、もしくは、月に何回か、定期的に図書館に出かけ、本を閲覧したり、借りたりすることをすすめます。

(2)同時に、「く」を読む会「ビブリオバトル」「朗読会」など、図書館での様々なイベントに、家族で参加なさることも、すすめたいと思います。

(3)保護者が子供と共に、図書館に慣れ親しみ、図書館を「ホッとできる知的空間」「第三の場所(サードプレイス)」とすることも、素晴らしい家庭教育と考えます。いかがでしょうか。

(4)同時に、書店(本屋さん)も、定期的に子供と一緒に訪れ、どのような本がどこに置いてあるかを熟知することも、大切な家庭教育として、すすめたいと思います。大切な日のプレゼン

トは、何回かに1回は、「本」をお選ぶ。これも立派な家庭教育です。いかがでしょうか。

○今週の、C R Tラジオ栃木放送「開倫塾の時間」「林明夫の歩きながら考える」も、効果の上がる「家庭教育の方法」「率先垂範、保護者が模範を示すのが一番効果的」でした。

—学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

(1)家庭教育で最も効果的なのは、保護者が模範を示すことであるのと同様に、学習塾・予備校・私立学校での教育でも効果的なのは、先生方が模範を示すことと考えます。

(2)様々な教科の「効果の上がる勉強方法」や、様々な課題の取り組みかたについては、先生方が、「このような方法もあるよ」と、失敗談も含め、自分のやり方を示すこと。

(3)「教育効果の成立要件」として、「本人の自覚」と「先生の力量」が大切と考えます。自慢話を延々とするのは逆効果ですが、「先生が自分の経験を、失敗談も含め、率直にお話するのは、本人の自覚を促す」ことに役立ちます。いかがでしょうか。

—最後に一言どうぞ。

今月も先生方のお役にたつかもしれない本を何冊かご紹介させていただきます。

(1)第一冊目は、マイケル・ポーター著「改訂版・競争の戦略」(ダイヤモンド社、1995年3月16日刊)です。30年前の戦略論の名著ですが、なぜか、高市内閣は、成長戦略の中心に、ポーター先生の「クラスター戦略」を掲げました。ならば、ぜひ、読みなおし、「学び直して」「武器として再活用」しようではありませんか。

(2)第二冊目は、幸田露伴著「二国首都」(岩波文庫/岩波書店、93年6月27日刊)です。「副首都(第二首都)」が現実味を帯びてきましたので、「二国首都とは何か」をゼロベースで議論するときの必読テキストとして、文豪、幸田露伴の本著をおすすめいたします。同著「努力論」(岩波文庫/岩波書店、2001年7月16日)と同様、文豪露伴の隠れた名著です。

(3)第三冊目は、鹿毛正次、楠見孝、南風原朝和著「学力の心理学、何をどう評価する」(著書「学力とは何か」について、教育心理学科らのアプローチで、示唆に富みます。議論すべ

きポイントについて、どう考えればよいのか、参考になります。

(4)四冊目は、福田直子著「略奪美術品の行方、ナチスの略奪からウクライナの進行まで」(集英社新書/集英社、26年6月22日刊)です。ドイツからの報告です。先月号で紹介した、熊谷徹著「排外主義と戦うドイツ」(高文研、26年6月10日刊)と合わせて読むことをおすすめします。お二人の在ドイツジャーナリストが、祖国日本の発展を願い、長年、何を訴えておられるのか、真剣に考えましょう。

(5)第五冊目は、加藤信之著「福音派、終末論に引きずられるアメリカ社会」(中公新書/中央公論新社、25年9月25日刊)です。「宗教右派は超大国・アメリカに何をもたらしたのか」、トランプ政権の本質に迫ります。先月、ご紹介の遠藤誉先生のご著書と、先月ご紹介した、熊谷徹氏のご著者と合わせ読むと、アメリカ、ヨーロッパ、中国、中東はじめ、世界の動きが、謎解きのように、よくわかります。

(6)第六冊目は、中国、唐の時代を築いた、名君太宗と部下たちのやり取りをまとめた、「リーダーシップ論」として中国の古典中の古典、「貞観政要(じょうがんせいよう)」です。原田種成著の明治書院刊の新釈漢文大系「貞観政要④⑤」に挑戦するのでもいいのですが、初めてのの方は、入門書として、次の二冊をおすすめします。出口治明著「座右の書『貞観政要』」(KADOKAWA、19年12月7日刊)と、渡部昇一・矢沢永一著「新装版、貞観政要、上に立つ者の心得」(致知出版社、19年10月18日刊)です。全文は、講談社学術文庫、21年1月8日刊でお読みください。原田先生の名著「新釈漢文大系④⑤」(明治書院刊)は、多くの図書館にあります。

(7)第七冊目は、小林恵智著「ヘッダーシップ・ネオ」(幻冬舎、26年8月7日刊)です。リーダーシップ論の完成型といえます。リーダーは、どのような性格の部下を組み合わせれば経営数値(結果)を出し続けることができるのか。是非「二読を」。

(2026年8月6日記)